

2018年1月11日
(米国時間:1月10日)

マツダ株式会社
トヨタ自動車株式会社

マツダとトヨタ、米国アラバマ州に合弁新工場を建設 —2021 年稼働開始に向けて、16 億米ドルを投資し、約 4000 名を雇用—

マツダ株式会社(以下、マツダ)とトヨタ自動車株式会社(以下、トヨタ)は、2017 年 8 月に発表した米国における合弁新工場を、アラバマ州ハンツビル(Huntsville)市に建設することを決定いたしました。本日、アラバマ州において、同州のケイ・アイヴィー(Kay Ivey)知事、ハンツビル市のトミー・バトル(Tommy Battle)市長、マツダの小飼雅道代表取締役社長兼 CEO、トヨタの豊田章男代表取締役社長らが記者会見を行い、発表しました。

新工場の生産能力は年間 30 万台を予定し、マツダ・トヨタ向けの各生産ラインで、マツダが北米市場に新導入するクロスオーバーモデルとトヨタの「カローラ」を 15 万台ずつ生産します。

新工場は、トヨタのアラバマ工場(Toyota Motor Manufacturing, Alabama, Inc.)から約 20km 離れた場所にある、ハンツビル市の敷地に建設されます。2021 年の稼働開始に向けて、両社折半出資で約 16 億米ドルを投資する計画です。新工場の雇用人数は約 4000 名を予定しています。

アラバマ州のアイヴィー知事は、「マツダとトヨタのパートナーシップは、アラバマ州における革新的な自動車製造業の力を拡充するものです。両社がハンツビル市に工場を建設する決定をしたことは、アラバマ州の優れた労働力の証でもあります。このパートナーシップにより、ダイナミックかつグローバルな自動車産業において、アラバマがさらに技術的に優れた州となることを喜ばしく思います」と語りました。

ハンツビル市のバトル市長は、「今回の発表で私たちの世界は一夜にして変わることであります。世界で最も革新的な自動車メーカーの一角をなすマツダとトヨタが、今後数十年にわたってハンツビルやアラバマに雇用をもたらすレガシープロジェクトに取り組みます。これは、私たちの国を動かす次世代のクルマ作りにおいて、アラバマを業界のリーダーに飛躍させるものです」と述べました。

マツダは、創立 101 年目、米国販売 51 年目となる節目の 2021 年に、本工場を立ち上げ、アメリカに根付いて生産・販売を本格化させます。

マツダの小飼社長は「私たちは、『人を元気にし』、『人にやさしい社会』と『美しい地球』に貢献するといった明確なビジョンを持ってクルマ作りをしています。こうした意味を持ったクルマをこの地で末長く生産し続けることで、従業員から愛され、地域の皆さまからも愛される工場になりたいと思っています。そうした活力あふれる工場を通じて、私たちも成長し、ハンツビル市やアラバマ州の皆様と支え合える存在になりたいと思います」と語りました。

トヨタにとっては、合弁新工場は米国における 11 か所目の生産拠点となり、昨年発表した「2017 年以降の 5 年間ににおける 100 億米ドルの投資」に加えて、米国への継続的なコミットメントを象徴する投資になります。

トヨタの豊田社長は「アラバマ州にマツダとの車両生産工場を新設する今回の投資決定は、トヨタが 15 年以上にわたり同州でエンジン生産を行ってきた経験に裏打ちされたものです。トヨタとマツダの知見を持ち寄り、アラバマ州の優れた方々とともに、2021 年より、高い競争力を誇る工場を運営できると確信しています。今後、両社の新たな『ふるさと』であるハンツビル市やアラバマ州において、『町いちばんの会社』となることを目指して取り組んでまいります」と語りました。

アラバマ州は、ハンツビル市にある、約 1400 名の従業員が働くトヨタのエンジン工場を含めて自動車関連工場が多く存在するなど、米国で 5 番目に大きな自動車生産量を誇る州です。同州では、自動車メーカーに加えて、150 を超える 1 次および 2 次仕入先を含め、約 5.7 万人の自動車関連雇用が生み出されています。

今後、各国の独禁法当局の許認可等を取得後、合弁会社を設立し、2021 年の稼働開始に向け、準備を進めてまいります。

以上